

今後の展望を「はまかだ」

本年度1回目の未来図会議

陸前高田市

陸前高田市の保健・医療・福祉関係者らが一堂に会する市保健医療福祉未来図会議は12日、高田町の市コミュニティホールで開かれた。平成29年度1回目の活動となった今回

は、「未来図会議は何のために」というテーマで約30人の参加者が「はまかだ」7年目を迎えた未来図会議のこれからについて話し合った。

同会議は、市民誰もが人の輪の中に入り、自然と語り合う雰囲気づくりを目指す「はまかだ」を本年度の年間テーマとすることを確認。

続いて、市民生部の菅野利尚部長が「これからの未来図会議、そして陸前高田市の健康づくり、地域づくりに向けて」市の被災地絆づくりアドバイザーやノーモライゼーション大使などを務める岩室紳也さんが「未来図会議が目指してきたこと一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて」と題してそれぞれ講話。それを踏まえたうえで、参加者たちが未来図会議をどのように活用してきたかについて語り合った。

このうち岩室さんは、ハイリスクアプローチ(高いリスクを持った個人を対象を絞り込んだ戦略)とポピュレーションアプローチ(集団全体への戦略)について説明し、「未来図会議はポピュレーション対策重視のアイデア・ヒントを共有し、社会・地域に向けた提言を行い、協働やまちづくりを推進する場」と改めて紹介した。

また、「信頼」「ネットワーク」「お互いさま」という3要素によって成り立つ「ソーシヤル・キャピタルをつくり上げるのが未来図会議。顔が見え、お互いがつながれば絆(きずな)が育まれる」と締めくくった。



会議でははじめに、『はまかだ』に始まるノーモライゼーションという言葉の知らないまちづくり障がいや個性などを意識することのない、誰が保健・医療・福祉関係者らが集い、今後の未来図会議について語り合った市コミュニティホール(電子新聞に別写真あり)

菅野利尚部長が「これからの未来図会議、そして陸前高田市の健康づくり、地域づくりに向けて」市の被災地絆づくりアドバイザーやノーモライゼーション大使などを務める岩室紳也さんが「未来図会議が目指してきたこと一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて」と題してそれぞれ講話。それを踏まえたうえで、参加者たちが未来図会議をどのように活用してきたかについて語り合った。

このうち岩室さんは、ハイリスクアプローチ(高いリスクを持った個人を対象を絞り込んだ戦略)とポピュレーションアプローチ(集団全体への戦略)について説明し、「未来図会議はポピュレーション対策重視のアイデア・ヒントを共有し、社会・地域に向けた提言を行い、協働やまちづくりを推進する場」と改めて紹介した。

また、「信頼」「ネットワーク」「お互いさま」という3要素によって成り立つ「ソーシヤル・キャピタルをつくり上げるのが未来図会議。顔が見え、お互いがつながれば絆(きずな)が育まれる」と締めくくった。

東海新報

2017.5.13